

2023.07.09.永続的・たゆまぬ聖化 Mac 牧師

ここで語られる主の御言葉に感謝します。私たちの牧師たちをあなたに感謝します。今朝、あなたの御言葉を伝えるマック牧師と共にいて下さいますか？ 主よ、私たちを受け取れるよう整えて下さい。ですから、主よ、私たちを集中させ、近くに引き寄せ、留めて下さい。私たちを祝福して下さい。今、共に過ごすこの場所に感謝します。私たちを見守り、守ってください。イエスの御名によって。アーメン。アーメン。どうぞ着席ください。ありがとうございます。おお、主を褒め称えます。皆さん、おはようございます。J.D.ファラグ牧師の代わりに、ここカルバリーチャペル・カネオへによろこ。おお、なんということ。市外から来てくださった人、本当にありがとう。特別な歓迎をしたいと思います。J.D.牧師に会えず、とても残念ですね。でも、しばらくここにおられる間に、あなたが彼に会えるよう祈りますが、少なくとも帰られる前に、あなたの情報を教えてほしいのです。そうすると近いうち、彼があなたに何らかの電子的手段で連絡する機会があるかもしれません。でも、私たちはあなたが来て下さり大変嬉しいです。私たちの愛と、もちろん神の御言葉で歓迎します。JD 牧師と言え、心配しないでください。—(笑)—なぜなら、もうまもなく、「JD の帰還！！」この写真、彼は怒るでしょうけど、でも構いません。—(笑)—私が皆さんの犠牲になります。主の御心なら、JD は、今週の木曜日から戻ります。休息をとり、疲労を回復させ、また御言葉を伝える準備をするため引き続きお祈りください。(今週の木曜日)「エゼキエル書」の学び再開だと思います。私は、彼の戻りを心待ちにしています。皆さんは、きっと「待ちきれないよ！！！」でしょうけど、皆さんには、分からないでしょう。皆さん、きっと分からない筈。私は、JD が戻って来るのを待ちきれません。それから、次回の祈り会は、8月1日ここ礼拝堂で、夜7時からです。ですから、是非いらっしゃって、一体となって祈りましょう。私たちは皆、祈りが必要です。私たちは多くのことのために祈る必要があり、祈っても祈っても足りません。ですから可能であれば、是非いらしてください。あなたが来られるのを楽しみにしています。日曜日の朝は、2つの礼拝があります。第一礼拝は通常「聖書預言・アップデート」に専念し、第二礼拝は「説教」に専念します。しかし、今日は「題材」の学びをします。で、第一礼拝は、「ローマ人への手紙6章19節」へ皆さんをお連れしたいと思います。今日は、一節だけです。可能ならご起立ください。今朝の聖書箇所を朗読し、その後祈ります。再度、「ローマ人への手紙6章19節」です。神の御言葉をお読みします。

—ローマ 6:19—

**あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔に進みなさい。**

ご一緒に祈りましょう。今朝のこの教えに主の祝福をお願いしましょう。愛する天のお父様、何よりも、主よ、この素晴らしい日を迎えさせて下さった事に感謝します。あなたが提供下さるから、私たちはここであなたの御言葉において集まれるのです。それが、私たちがここに居る理由です。あなたが与えてくださったこの時間を、私たちが惜しみなく捧げる時、あなたの御前で私たちに会っていただけませんか？あなたが語られるすべての御言葉から、私たちが多くを得ることができ、あなたの御心によって生きる事を学べますように。私たちはあなたを愛しています。もう一度心から感謝します。すべての栄誉と栄光があなたに帰されますように。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。どうぞ着席ください。今朝の第一礼拝の学びのタイトルは、「永続的・たゆまぬ聖化」です。このタイトルを選んだのは、私たち一人ひとりにとってより個人的なものにするためです。ご存知のように、「persistent/たゆま

ぬ」という単語は形容詞で、その意味は、行動指針において、困難や、反対にも関わらず、「継続的に」「堅固に」「毅然として」です。この「たゆまぬ」を聖化という名詞の前に置くことで、私たちがクリスチャンとして日々の聖化、あるいは段階的な聖化について論じるときに、その意味をどう表現すべきかをよりよく理解することができます。私たちのクリスチャンとしての歩みの中で、この領域は最も注目されていないか、あるいは間違った注目のされ方をしていると、私は確信します。聖化のこの側面は、私たち信者に素晴らしい機会を与える最大の責務と言えるかもしれません。なぜ私たちがこれを受け入れ、なぜこれをすべきなのか、その圧倒的な重要性を明確に理解するなら、私たちは一歩下がって、自分自身を取り込み、このことに全力を尽くすと思います。クリスチャンとして、私たちはみな試されている事を理解してください。私たち誰も、テストを受けていて、最終的に、公正な裁判官イエス・キリストによって評価されます。皆さんの何人かはどうか知りませんが、初めて主を信じたときに、このことを教えてもらったり、調べたりしておけばよかったと本当に思います。先週話したように、私は自分の罪のために救い主が必要だと知りました。そう、私は、その部分は分かりました。

「私は惨めな者だ。お、救い主？絶対必要！！！」

しかし、私が信者になったとき、それは、自分が必ず破るルールの束として私に示されました。私がそれを破らないものなら、そうしたかった。でしょ？ また、ルールというか、命令が良いものであることも知っていました。私はそれが良いことだと理解していました。しかし、私にはどうせみんな同じ場所に行くのならその理由が、すべての要点がわからなかった。なので、これは、この地上での称賛を得るための、ある種のシステム、評価システムだったの？ カッコいい！！あなたの勝ちだ！！ どうぞ、あなたの勝利だ。私は救われている。どうせみんな同じものを手に入れるんだから。天国でぶらぶらして、一日中歩き回るから。」

しかし、それはまったく違います。先に進む前に、この教えを通して、確認したいのが、私たちは救いを、この方程式から除外する。皆さん、大丈夫ですか？ 救いを、この方程式から外す。救いを失うことはあり得えません。前に話しましたね。私たちは救われています。

では、日々の永続的・たゆまぬ聖化は、栄光から栄光への、生涯のプロセスで、私たちは皆、追い求めるべきで、それは聖霊の御力によってされなければなりません。先週はこのことについて簡単に話しましたが、今朝は、主のお許しのもと、具体的に話を進める事を祈ります。ですから、主のお許しを持って、「永続的（たゆまぬ）聖化」を定義し、その違いを見るため、聖化の別の側面を見、これを弟子になる事と結びつけ、聖化の個人的前進への唯一の方法を吟味し、聖書から例を示し、なぜこのことを優先させねばならないかを指摘します。そういうことで、御言葉に入り、聖書的聖化の意味に取り組みましょう。皆さんのほとんどが、「聖化」とは「聖なる、聖別、切り離し」を意味する事をご存知ですね。「聖別される、聖なる」というのは、神を称えるため、神によって神の目的のために用いられることです。これが、私たちが理解しなければならない最初の第一歩です。これこそが、このことです。私たちが聖別されたのは、私たちが使うためではありません。たとえそれが最終的に私たちの益になるとしても。しかし、その聖化は、神の御言葉によって動かされなければならず、神の御霊に導かれなければならず、そして神の民に従わねばなりません。この聖化の側面を「義」と混同してはなりません。だから、私はこう言いました。この方程式に救いを持ち込まないで下さいと。この画面の表が理解する助けになることを祈ります。先週お話しした通り、私たちは救われれば、義とされます。再審はなく、二重の危険もありません。「私たちが義とされる」のは、イエス・キリストから与えられた義の故でその義を取り除くことはできません。

私たちの信仰のゆえに、「私たちは死からのちへと渡りました。」そして「私たちの全ての罪、過去・現在・未来の罪は、赦されている」のです。これがひと言で言えば、「義とされる」の意味です。

では、生ける真の神と共にある立場において、私たちは既に聖別されていることも知っておいてほしいと思います。「第一コリント人への手紙 1 章 2 節」神の御言葉をお読みします。

#### —I コリント 1:2—

コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、キリスト・イエスにあって聖なる者とされ、聖徒として召された方々へ。主はそのすべての人の主であり、私たちの主です。

繰り返しますが、これが立場的聖化です。私たちのイエス・キリストにおける信仰が故に。この立場を変えるために私たちにできることは何もありません。しかし、この持続的な聖化において私たちがどこにいるのか、間違いなく影響を変えることができます。繰り返しますが、これは「主の御心に従うこと」で、私たちが今現在よりも「義とされる」を得るところ、生涯のプロセスだからです。悲しい事に、私たちの多くは、肉欲の中で自分の意志のため生き続けることによって、それを怠っています。それが問題です。でも私たちが主の御心に従うのを選ぶなら、「私たちの人生は、時間の経過と共にあらゆる面で変化していきます。」そうすると、私たちは、主であり救い主イエス・キリストの恵みと知識の中で「成長し続け」ます。そのおかげで、私たちは「罪から遠ざかっていく」からです。私たちは、罪を犯すことがなくなるのではなく、主に従う事によって、罪を犯すことが少なくなります。これが永続的・たゆまぬ聖化です。キリストの姿に自分を変えることを積極的に追求することで、私たちは聖化されるからです。

そのために私たちに果たすべき役割があります。ついてきていますか？ キリストの似姿とは、全て主の御言葉にあります。主の御言葉こそ、私たちが担うべき似姿です。それこそが、神が用いられるため、神のご栄光のため、私たちが聖別されるのです。私たちは、主の御言葉を理解する必要があります。ただ見ているだけじゃなく、理解する事。私たちがそのポイントを見落とししたら、主が私たちの人生を通して、私たちと共になされることを妨げることになるからです。キリストの似姿とは、断片的なものではなく、神の御言葉の評議会全体にあります。イエスは、弟子たちのために祈られました。イエスが何を祈られたかを考えるべきです。「ヨハネの福音書 17 章 17 節から 19 章」に記されています。神の御言葉をお読みします。

#### —ヨハネ 17:17—

真理によって彼らを聖別してください。あなた（御父）のみことばは真理です。

#### —ヨハネ 17:18—

あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。

#### —ヨハネ 17:19—

わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。

で、あり得る質問は、イエスは、どのようにご自身を聖別されたのか？

答え：神の御言葉によってもたらされる御父の御心に従う事によって。

究極の御心は、イエスが人類の贖いのために子羊として屠られることでした。実のところ、私たちの誰も、その御心を実行することはできません。私たちの誰もが使徒パウロに与えられた御心を実行できなかったように。聞いて下さい。それは具体的な御心です。まず御言葉を聞くことによってもたらされ、そして、その真理に基づいて行動することで、その真理によって聖別されます。これが理解出来るのを願

います。もし私たちが眠ったままでいることを選び、自分の意志を貫き続けたりするなら、天のこちら側で、このような経験をするのではないかもしれないからです。主が私たち一人ひとりのために持っておられる特定の御心があり、そして、私たち全員には意志があります。主の御心を受け入れ始めると、弟子となるプロセスが始まります。皆さん、聞いていますか？ 信じられないかもしれませんが、時代を超え、イエスの弟子であることの側面は神の神聖な目的に基づき変化してきました。つまり、その信者たちは、初代教会同様、こんにち私たちに目の前にあるものを立ち上げるために召されました。しかし当時から今に至るまで、私たち全員がイエスに従うよう召されています。ルカの福音書の最後に出てくる弟子たちと比べると、私たちはせいぜい基本的な弟子だという話をしました。先週、話しましたね。でも実は、「マルコの福音書」の最後にもあります。その意味するところを知るため、その箇所を見たいと思います。多くの人々が落胆するのと同様、永続的に聖別されることを妨げる不必要なプレッシャーを感じることなく、主のため弟子として献身できるよう祈ります。「マルコの福音書 16 章 15 節から 18 節」に記されている大宣教命令を見たいと思います。ポイントを示したいと思います。御言葉をお読みします。

—マルコ 16:15—

それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。問題なし。

—マルコ 16:16—

信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

OK。分かりました。

—マルコ 16:17—

信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、

—マルコ 16:18—

その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

ここで止めます。これが分かりますか？ あの～これが分かりますか？ これが、私が信者だと証明する条件としたら、私は困ってしまいます。最初に言うておきますけど、大変困ってしまいます。最近、悪霊を追い出していないから。多くの悪霊に対処しましたけどね。でも彼らはまた戻ってきますよ。異言。私は辛うじて英語が話せます。私は、エボニクス/黒人英語を話します。東海岸エボニクスの北と南、両方に住んでいました。西海岸もね。「アレ」も学んでるところです。おお、なんと、、、蛇をつかむのはどうでしょう？ ちなみに、これが理由の 1 つですよ。本土の教会で、確かカンザス州のスネーク教会だったと思いますが、その牧師の一人がガラガラヘビに噛まれ、治療を拒否して死んだ。私や蛇のことを心配しないでください。何を言いたいかわかりますか？ ヘビを見かけたら、私が言いたいのは、あなたが見ることになるのは、私が置いていった服だけ。名字をマッケイティンから、マックストリーキング\*（マック全裸で走る）に変えますよ。それを見ることになる。でも、悲しいでしょ？ 本当に悲しいです。また、私たちの多くが、癒しの賜物を得たいと欲する事はどうですか？ ですよ？ これらの賜物は、未だ有効ですが、これらの賜物の当初の目的は既に達成されています。私たちがここで止まって、この全てを体現する弟子になるのを求めるなら、惨めに失敗するでしょう。NAR（新使徒改革）やその他のグループ、彼らが使うのはこれです。このためにどれだけの人が励んでいるか？ 神が意図されたようには聖別されず、多くが外れた目標に向かっていきます。繰り返しますが、このような賜物が与えられ、この

ような力があつたのには理由があります。読み進めれば、その理由がわかります。19節20節、御言葉をお読みします。

—マルコ 19:19—

主イエスは彼らに語った後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。

そして20節、

—マルコ 19:20—

弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。] アーメン。

それらのしるしはすべて、神の御言葉を確証するものでした。覚えておいてください。彼らには新約聖書がありません。神の御言葉が、確証されなければならなかった。私たちが、神の御言葉を確証しているのではありません。私たちは、神の御言葉を伝えるのです。それが私たちのすることです。そのために私たちは、すべての生きとし生けるものに福音を宣べ伝えなければなりません。しかし私たちは、御言葉を確証するため召された人々と同じ時代にはいません。考えてみてください。おお、「ヨハネの黙示録」に、偽預言者がいると言われてますね？ しるしと不思議で、人々を惑わす。私たちはこのことを認識すべきです。主にあつて歩みを始める通り、私たちはこのことを理解せねばなりません。私たちの焦点は、言わば、旧体制の誤った情熱に向かつてはいけません。また、私たちは異邦人であることを忘れてはならないと思います。何人かここに、ユダヤ人の方がおられますね。しかし、私たちの大半は異邦人です。イエスは、異邦人に御名を伝えるため使徒パウロを召されました。「使徒の働き9章15節と16節」に記されています。御言葉をお読みします。

—使徒 9:15—

しかし、主はアナニアに言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です。

このリストを見て下さい。

—使徒 9:16—

彼がわたしの名のためにどんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示します。」

私はいつも、なぜイエスは、パウロがすべての民族の間で御名を伝えるとは、仰らなかつたのかと不思議でした。なぜこのような区別をされるのか？ 異邦人、王たち、イスラエルの子ら使徒パウロは、彼らが誰であるかによって、異なるアプローチをしたのは、それが理由だつたと思います。聖典を読むと、それが見えてくるからです。彼の言葉やアプローチはそれぞれに合ったものでした。期待も反応も違ってくるからです。パウロはそれを理解していた。この理解が私を助け、大きな祝福になりました。イエス・キリストの福音と異邦人への手紙を一つのレンズで見、聖書の残りの部分をヘブライ語のレンズで見るようになったからです。それが最重要です。そんなこと教わりませんでしたよ。そのレンズがないと、ちゃんと見えませんよ。これでピントが合います。これは、聖典のどんな箇所も軽視するわけでも、パウロ寄りになるわけでもありません。違います。これは私が学び、理解し、主にあつて成長する上で、私を祝福された仕組みです。そう、イエスは、異邦人に御名を伝えるためパウロを召されました。それが神の御言葉にあります。聞いてますか？ では、質問させてください。私たちの文化は、当時のユダヤ文化に似ているのか、それとも当時のローマ文化に似ているのか？ 心配しないでください。座って返事を待っていますから。私たちの文化は？ ローマです！！ 低レベルの異邦人、あるいは神のものを顧みない異邦

人でいっぱいです。だから、使徒パウロが異邦人に語りかける時の口調は、ユダヤ人の同胞に語りかける時の口調とは全く異なるのです。全く違います。使徒パウロは、真の生ける神についてユダヤ人に教える必要はありませんでした。彼らは既に、真の生ける神のことを知っていました。彼らの問題は、救い主を拒絶したことです。ですから使徒パウロは、聖書を使って、この時、旧約聖書しかありません。ユダヤ人のところに行き、聖書を通してイエスが救世主だと証明しました。ユダヤ人が信じた時、どうです？ 彼らはすでに弟子になるよう仕立てられていました。ついてきていますか？ 彼らはすでに聖なる生活について知っていました。外側から、彼らはすでに聖別されていました。彼らはそのことを知っていました。パウロが彼らに語りかけ、キリストを証明した時、信じる者はすぐに弟子となる準備が整っていました。では、さて異邦人は？ 異邦人は、そもそも、生ける神について学ばなければなりません。手がかりがないからです。主を信じて初めて、私たちは主の御心を学び始めます。主の御心に従うなら、私たちは聖化され、主は私たちを、ご自分の目的に基づいて用いることが御出来になられます。主は、私たちが用いるために整えられます。でも、アプローチを見ていると違います。

質問は、その違いがわかりますか？ ユダヤ人は、すでにその文化がありました。私たちにはありません。私たちの持続的な聖化と、弟子になる事は、もっと密接に関係します。ユダヤ人は、信じる前から弟子でした。ついてきていますか？ 理解するのを祈ります。私はこれ以上うまく説明できませんから。主よ、私はベストを尽くしました。ということで、異邦人に示された聖化に関するいくつかの聖句を見てください。「第一テサロニケ人への手紙4章」3節から8節、御言葉をお読みします。

—I テサロニケ 4:3—

神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。あなたがたが淫らな行いを避け、

—I テサロニケ 4:4—

一人ひとりがわきまえて、自分のからだを聖なる尊いものとして保ち、

—I テサロニケ 4:5—

神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、(これ、分かりますね?)

これは信者、つまり異邦人、新しい信者に対して書いています。パウロは、彼らが神を知らないのを理解していました。私はあなた方に神について教えてきた。今、これらのことが期待されている。次の6節、

—I テサロニケ 4:6—

また、そのようなことで、兄弟を踏みつけたり欺いたりしないことです。私たちが前もってあなたがたに話し、厳しく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて罰を与える方だからです。

—I テサロニケ 4:7—

神が私たちを召されたのは、汚れたことを行わせるためではなく、聖さにあずからせるためです。

—I テサロニケ 4:8—

ですから、この警告を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の聖霊を与えてくださる神を拒むのです。

異なったアプローチです。これらは聖書のほんの数節に過ぎませんが、聖なるものであること、聖別されること、そして留意すべきは、そこに神の御心があることです。最初に言及されているのは性的不道徳です。なぜその事例なのか？ なぜなら、それが事例ではないですか？ その信者たちと同様に、これは全人類を悩ませる肉体の第一の罪です。神の御言葉全体にあるのが、聖書全体を通して、ほとんどすべての書が性的不道徳について語っています。それが、私たちの聖化のプロセスを妨げる最大の要因で、その中

で生きることは、私たちをイエス・キリストの弟子になる事から遠ざけます。知っておいて下さい。ポルノも含まれます。おそらく最悪のもの 1 つです。神はそのすべてを姦淫と姦通に含めておられます。これは、結婚前の性的関係同様、結婚外の性的関係です。考えると、結婚は、一人の男と一人の女の間にしか存在しません。真の生ける神の御目には、それだけです。私たちは、肉を大事にするのではなく、別の方法で自分自身を聖別したいのです。これは聖別されることで、根絶されなければなりません。私たちの結婚は、このプロセスを促進するものでなければなりません。これで結婚している私たちはまっすぐになれるはずですが。私たちはこのことについて、「一体となる」の学びの中で話しましたね。どんな理由であれ、互いに奪い合うことになるかと指摘をしました。そのような人は、配偶者に対して性的に無責任です。あなたは悪を招いています。それが、あなたの祈りが妨げられている理由かもしれません。あなたは本当に主を信じていますか？ 主は恵み深い方です。誤解しないでください。でもある時点で、止められます。あなたの注意を引くためどんな成長も後退してしまいます。私たちの全注意を引くために。不倫がしばしば離婚につながることは知っています。しかし、それ以外にも考えなければならないことがあります。財政破綻、子どもを巻き込んで家庭崩壊、うつ病、羞恥心による引きこもり、名誉損失、霊的挫折とさらに悪化。毎月、私たちの多数は「箴言」を読みます。5章と6章は、この結末を思い起こさせます。それを心に刻むべきです。私の考えでは、家で仕事をすればするほどこのような問題に遭う可能性は低くなります。そうでないとき、敵に拠点を与えてしまいます。神は気に留めておられます。私たちは、ポルノを迂回することはできません。これは大きな問題なのに、あまり注目されていません。すべての男性グループと女性グループがこのことについて話すべきです。なぜなら、これが私たちが直面していることだからです。あなたのことは分かりませんが、何か合法的なものを探するために携帯を使うと、何らかの広告が飛び出してくる。とても不謹慎です。制限ブロックをかけて制限しても、どうにかして迂回してくる。ソフトポルノなんてものは存在しません。でもこのようなことが、不安や親密さの喪失を引き起こします。人々が気づいていない大きな事柄です。特に、女性への影響となると尚更です。男性がこれにハマっているのを知ると、彼女らを混乱させます。彼らが考えるのは、あなたが考えていることだけ。それが不倫を招き、感情的なストレスを与え、女性をおとしめ、特に精神衛生上の問題を引き起こし、もちろん、霊的成長の欠如となります。内なる聖霊に反抗するからです。「第一ヨハネの手紙 2 章 16 節」御言葉をお読みします。

#### —I ヨハネ 2:16—

**すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。**

これが全てを物語っています。特にポルノに関して。全てが欲望と反逆です。それが高ぶりです。反逆。それを感じ、見て、行動する。誰にも見られていないと思うから、つい続けてしまう。内住されている聖霊が大変悲しまれます。知ってます？ 配偶者にポルノを見せるようなクリスチャンカップルは恥です。すると、務めを維持する必要はなくなる。私には、、、私が、そういう状況が自分の目の前にくると、誰かを絞め殺すのを我慢するのに、私のすべての力が必要です。まるでパートナーを助けているかのようにそれをする多くのクリスチャンがいます。こんなくずを家に招き入れますか？ 扉を開いて、「悪魔さん、いらっしゃ〜い。」ですよ。それは、悪魔のものです。それが私たちを聖化から遠ざけます。神は気に留めておられます。姦淫には、独自の問題があります。予期せぬ妊娠、社会的依存、責任感の喪失、経済的負担、女性的な男性につながる父親のいない子どもたち、結婚観の偏り。これらはほんの一部です。

私たちは互いに痛みを言い合うべきです。自分の置かれた状況を本当によく見て、主のご方法を信頼する力を与えてくださるよう主に求めるのです。主のご方法が、私たちの生きる最善の道だからです。親として、祖父母として、叔父として、伯母として、誰であっても、私たちはこのことについてどう言っていますか？ 私たちは何をしていますか？ 私たちは、彼らに正しい道を歩むよう勧めることさえしない。私にも子どもがいます。どうです？ ええ、そのせいで、関係が壊れることもあります。しかし、私たちは誰に仕えるのか？ もしかしたら、自分の子どもや姪や甥に仕えているかもしれません。だから、何も言えなくなってしまう。彼らを打ちのめす必要はありません。正しくすることの背後の祝福について彼らを励ましてください。もし二人とも姦淫していてクリスチャンなら、結婚しましょう。簡単なこと。二人ともクリスチャンだと言うのなら、結婚するか、それとも自制する。正しくしましょうよ。何が問題ですか？ 主に信頼してください。一緒に計画を立て、神が私たちに意図された一体化を実現しましょう。

では、あなたたちが交際していて、どちらかがキリストのもとに来れば、まず第一に主を褒めたたえます。あなたは物事を正したいと思っているのに、相手がそうしない。あなたは岐路に立っている。私はそれを甘く言うつもりはありません。難しくなるでしょう。非常に難しく。で、どうするのか？ 要するに、主を信じなさい。それが私だったら、もし私がそういう事だとするなら、私の忠告を鵜呑みにしないでください。これは私だったらこうしますという話。まず、もちろん、それについて祈ります。それから、賢明な助言を求めます。誰かがすでにこのような経験をしていることは知っています。彼らはどうやってこの状況を打開したのか？ そして、相手に向けて、心配事すべて準備しておき、私は、気が散ることなく実際に話し合いができるような、最も快適な舞台を用意します。その間に、私はすべてを揃えてもおきます。私にできることすべて、私のリソース、出口まですべて整列させ、そして神の御心をする。時間がかかるかもしれません。しかし、私たちの神は恵み深いです。神は、私たち一人ひとりの状況をご存知です。しかし、私たちは神を信頼しなければなりません。そして心に留める。なぜなら私たちは、何をすべきかが分かる時、神の御前で何をすべきかわからないような振る舞いはできません。神は、私たちが知っている事をご存知です。私たちはこのことを理解すべきです。使徒パウロが語っているのはクリスチャン、つまりキリスト信者であることを再度、忘れてはいけません。でも彼らを弟子や使徒と呼んでいるところはどこにも見当たりません。彼は、同労者として指導者たちに語ります。彼は、助祭について、長老について、数え切れないほどのことを語っています。しかし、彼が特にこのような事例でこれをするのを見たことがありません。彼らは信者です。弟子の段階へ進むため指導が必要です。クリスチャンとは、キリストに従う者です。ですから、弟子だと言えます。了解。理解します。でもその違いが分かりますか？ ちょっと専門的でないことをすると、歩み方が乱れます。私たちは弟子であることと同時に、絶えず聖別される必要があります。でも時に、私たちは捻じ曲げてしまう。私たちは、弟子になる方法を学びたい。主が私たちに道を示し、聖別してくださる前に。それが問題です。7節8節を見て下さい。

#### —I テサロニケ 4:7—

**神が私たちを召されたのは、汚れたことを行わせるためではなく、聖さにあずからせるためです。**

繰り返しますが、聖さのために召されているのです。私たちの愛なる神は、私たちが肉の汚れに縛られたままであることを望んでおられないからです。主は私たちが聖別されることを望んでおられます。主を知るにつれて、主は、私たちの人生のどこに注意を払う必要があるかを、私たち個々に聖なる御言葉によって示して下さい。神の御言葉なくして、持続的な聖化はありません。私の兄弟姉妹よ、気をつけて

ください。聖句がいくつか書かれている本は多々ある。でも多くが人の意見です。御言葉によって、主の御言葉によって私たちは聖化されます。私たちが御言葉の中にいないなら、聖化は起こりません。再度、肉なるどんな者も、主の御前で栄光とはされません。私たちは、主が仰っていることを本当に理解する必要があります。奉仕は、真に聖別されることには匹敵しないからです。皆さん、理解くださるのを願います。奇妙な燃える炎（気持ち）で、主に仕えることができるからです。それは壊滅的です。私たちの再生は、御言葉によります。これは、私たち全員が最も取り組む必要のある分野です。そうすることで、私たちは、神が与えてくださる偉大な働きへと真に進むことができます。私たちの、ではありません。巷で見かける説教好きの宣伝マンたち、全ていわゆる神の御言葉の熱狂者たち、この偉そうな態度やいろいろなものを見てわかるでしょう。いいですか、悪魔がそれらを促進しているのですよ。それがこれです。偉大なる背教。それが起こります。8節、

#### —I テサロニケ 4:8—

**ですから、この警告を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の聖霊を与えてくださる神を拒むのです。**

繰り返しますが、私たちは一日中、このことに動揺し得るでしょうが、でもそうすると、神を拒絶しているのです。私たちに内住される聖霊は、私たちを優しく動かし、御心が分かるよう促し、その御心に基づいて行動する機会を与えてくださいます。留意ください。使徒パウロはこう言いません。「ですから、このことを認めないのは誰ですか？」とは。そうではなく、彼はこう言います。「この警告を拒む者は」それは自由な権利を提供しているわけではなく、私たちは認識する必要があるのです。聖霊に私たちに明らかにしていただければ、それに対処するチャンスさえあります。主の御言葉の中にいないなら、それを認めることはできません。それを拒絶するなら、私たちは今いる地点以上に成長することはありません。ですから、真の聖化のために私たちに可能な全ての行為は起こりません。それは、聖霊を消してしまいますよ。それが私たちに示され、私たちがそれをしないと決め、拒否すると、聖霊が消えます。

現在の私たちの生活に反映され、将来の損失が予想されます。ここで聖霊に焦点を当てたいと思います。これで主が私を指し示されたところに、すべてが導かれることを願います。「第一コリント人への手紙6章」に収められています。御言葉をお読みします。19節、

#### —I コリント 6:19—

**あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。**

ですから、私たちは神の御言葉によって聖別されます。私たちをすべての真理へと導いてくださるのは聖霊です。同意しますよね？ 聖霊が宿る宮として、御霊が私たちの内で働かれることを私たちに啓示されたことを同意することで許可せねばなりません。御霊がそれを啓示される。私たちは同意する必要があります。そして、受け取った導きに従っていく。それがプロセスです。御言葉をより深く理解するにつれてより多くの導きが与えられ、そして聖霊の導きに従う機会が増える。生涯のプロセスです。しかし留意すべきは、私たちは内外から聖別されます。そのことを心に留めておいて下さい。栄光の御霊に関連する点を指摘するため、ソロモン王の神殿に戻って対比をしたいと思います。理由は、ソロモン神殿の建設後の「第一列王記8章10-11節」、神の御言葉をお読みします。

#### —I 列王記 8:10—

**祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が主の宮に満ちた。**

## —I 列王記 8:11—

祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである。

聞いていてください。留意すべきは神殿が完全に完成するまで、主の栄光は現れなかった。神殿に関連するものはすべて、神殿の外からもたらされた。そして、祭司の働きのために神殿に入る前に、そのすべてが聖別された。つまり、主の栄光が内側に現れる前に、外側から聖別されなければならなかった。それが分かりますか？ ユダヤ人の律法に似ていて、彼らは民として、外側に律法を定めていた。では、ソロモン王の神殿は完成までに7年かかり、数え切れないほどの人手と、現代の価格では約170億から180億ドルです。内側は黄金の壁で覆われていましたが、栄光の御霊が入るまでは、真の価値はありませんでした。これが分かりますか？ 私たちが聖霊の宮であるという対比を見てください。私が思うに、私たちには大きな利点があります。私たちには、信じた瞬間に私たちの内に聖霊が住まわれます。人手は必要ありません。聖霊の御力だけです。たとえ私たちの内側が死の宮のようであっても、私たちが義としてくださるキリストにあって、私たちがかけがえのない存在にするのは御霊（聖霊）です。私たちは毎日、私たちの内側が黄金のように純潔になるよう私たちが聖なるものへと駆り立てる聖霊の力をさらに求めながら、主の御名を呼び求めることができます。私たちには独自の強みがあります。私たちがすべきことは、御言葉の中において、御言葉を受け入れ、御言葉に応答することです。時間の経過とともに、私たちの生活は聖化されながら変化し、私たちがイエス・キリストの弟子である事が、真に注目されるでしょう。自分がイエス・キリストの弟子かどうか、どうやって言えるのかと疑問に思うなら、ここでひとつ、質問という形で投げかけてみます。最近、教会関係者や知り合い以外で、あなたが何も言わなくてもクリスチャンだと気づいた人がいましたか？ 考えてみてください。その答えが「全くない」なら、まあ、あなたが弟子ではないとは言っていません。これは、私たちが使える物差しだと思います。私たちの多くは、このことを理解しないまま生まれ変わりました。私がそうでした。救いが即座にすべてを変えようと思ったからです。そうではありません。全然違います。そして、繰り返しますが、それは、聖霊にご支配いただく代わりにルールのために生きることだった。それが違うのです。自分の力でしようとしても、決してそうはなりません。「第二コリント人への手紙3章」16節から18節、これを家に持ち帰るため、このステップを踏みます。御言葉をお読みします。

## —II コリント 3:16—

しかし、人が主に立ち返るなら、いつでもその覆いは除かれます。

この覆いが取り除かれるのは、私たちがキリストのもとに来ると決めたからです。それまでは、私たちの心と思いは覆いがかかっていた。モーセの顔が輝いたのは、彼は顔に覆いをかけて、イスラエルの子らに語っていたのです。（出エジプト 34:35 参照）

しかし、彼が会見の天幕に入ると、その覆いをとって、主と話したのです。それを心に留めて下さい。17節、

## —II コリント 3:17—

主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。

OK。何の自由か？ 何が自由か？ それは罪の非難からの自由です。律法からの自由です。私たちが義のしもべとなることの希望です。繰り返しますが、一晩でというわけにはいきません。それは聖霊によって教えられなければなりません。18節、

—II コリント 3:18—

私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。...

これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

OK。これは私のための節です。聖別されることに関しての、鍵となる節です。私たちはこの聖句を心に刻むべきです。この一節にすべてが集約されているからです。再度、モーセが主と会見した時、彼は覆いを外しました。モーセは覆いを外して、主と共に過ごす時間が増えれば増えるほど、彼の顔は輝きを増していきました。点と点が繋がりますか？ モーセはその間中、神の姿に変えられていました。神の御前にいたからです。私たちには聖霊が内住されています。主の御霊が働かれるのを許せば許すほど、私たちは栄光から更なる栄光へと変えられていきます。私たちの会見の天幕は、おお、どこにでもあります。一日中、どこにいても、止めない限り、終わりはありません。また、私たちが始めない限り、始まりません。これはあちこち走り回ることはありません。違います。この設定、あの設定、その設定。違います。これは個人的な関係です。思い出してください。モーセは、主と会見しました。モーセ個人が、主と会ったのです。集団ではありません。違いが分かりますか？ 一日中この機会があります。家でも、職場でも、何をするにしても、ランチタイム、運転中、飛行機内でも、公園でも、散歩していても、どこでも。私たちは主と会う機会があります。主の御言葉によってもたらされる永続的な聖化によってのみ、私たちは真に栄光から栄光へと変えられます。何が問題か？ おお、私たちの救いではなく、「イエスからの永遠の報酬」の問題です。同じイエスが、このプロセスによって、私たちが主を讃えていることを示されます。問題は、私たちがこのプロセスを許すかどうか？ ご起立ください。カポノ、上がってきてください。天のお父様。私は祈ります。今朝、あなたの御言葉の中でなされたことを、私たちの心と思いに導き、魂に安らぎを与えてくださいますように。もし何かはずれていたら、主よ、私のためにそれを正してください。彼らがあなたのメッセージを聞けるよう祈ります。私たちは皆、これが必要です。栄光から栄光へと変えられる必要があるからです。私たちに、そのことを永続的に取り組む心と意欲を与えてください。あなたがなさってくださったことを感謝します。

主よ、私たちはあなたの御霊が宿る宮であることを認識します。私たちがそれを消したり、悲しませたりせず歓迎することができるよう助けて下さい。あなたに仕え続けさせて、私たちが真の弟子にしてください。来たるあなたの王国の促進のために。私たちはあなたを愛し、あなたを褒めたたえます。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

-----  
メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7